

WebEdge 3.8.2J 補遺マニュアル

マニュアル・バージョン3.8.2

2004年 5月

目次

1. 新しく追加された機能について.....	1
2. SMTP 認証.....	1
3. APOP.....	1
4. IMAP.....	2
4.1. IMAP クライアントとしての機能.....	3
4.1.1. Sent フォルダ.....	4
4.1.2. Trash フォルダ.....	4
4.1.3. Drafts フォルダ.....	5
4.1.4. フォルダの作成 / 削除.....	5
4.2. WebEdge を IMAP としてお使いになる場合のご注意.....	7
5. 追加情報.....	8
5.1. アドレス帳検索をご利用になる場合.....	8
5.2. Post.Office と WebEdge と連携させていて、Post.Office のアカウントを削除する場合のご注意.....	8
6. WebEdge 3.8.2J の制限事項.....	9
6.1. IMAP で検索を行うと、未読のメッセージが既読になる.....	9
6.2. 階層的なフォルダを削除する場合の注意.....	9

1. 新しく追加された機能について

WebEdge 3.8.2J では、次の機能が新たに追加および修正されました。

- SMTP 認証
- APOP
- IMAP

これから説明する新機能の設定は、mobility.cfg ファイルに対して行います。

通常、mobility.cfg ファイルは、C:\Program Files\WebEdge\config_mdn\mobility.cfg にあります。

2. SMTP 認証

Post.Office に、SMTP 認証機能が追加されたことに伴い、メールクライアントとしての WebEdge にも SMTP によるメール送信時に、SMTP 認証を行う機能が追加されました。

Post.Office 側の[SMTP 認証の設定]で[SMTP 認証を有効にする]を[はい]に設定した場合は、WebEdge でも SMTP 認証を有効にしなければ、WebEdge からメール送信できません。

SMTP 認証機能を使う場合は、mobility.cfg ファイルの SMTP_AUTH_ENABLED と SMTP_AUTH_REQUIRED を true に設定します。

SMTP 認証機能を有効にする

```
SMTP_AUTH_ENABLED=true  
SMTP_AUTH_REQUIRED=true
```

SMTP 認証機能を無効にする

```
SMTP_AUTH_ENABLED=false  
SMTP_AUTH_REQUIRED=false
```

この設定を変更した場合は、WebEdge の再起動を行ってください。

3. APOP

Post.Office に、APOP 機能が追加されたことに伴い、メールクライアントとしての WebEdge にも POP でもメール受信時に、APOP でパスワードを送出する機能が追加されました。

POP によるパスワードの送出手は、平文のまま行われるので、安全ではありません。APOP を利用すればパスワードは暗号化によって毎回異なるものになりますので、POP でパスワードを平文のまま送出手のに比べてセキュアになります。

APOP を使う場合は、mobility.cfg ファイルの APOP_ENABLED を true に設定します。

APOP を有効にする

```
APOP_ENABLED=true
```

APOP を無効にする

```
APOP_ENABLED=false
```

この設定を変更した場合は、WebEdge の再起動を行ってください。

4. IMAP

Post.Office に、IMAP サーバ機能が追加されたことに伴い、メールクライアントとしての WebEdge も IMAP クライアントとしての機能を修正し、チューンアップしました。

WebEdge を IMAP クライアントとして利用する場合には、mobility.cfg ファイルの MSG_STORE_PROT を Imap に設定するか、WebEdge の管理者画面の[メール/DB]をクリックし、[デフォルトメールボックスプロトコル]を[IMAP]に変更します。

IMAP を有効にする

MSG_STORE_PROT =Imap

POP を有効にする

MSG_STORE_PROT =Pop



図 1 [メール/DB]画面

この設定を変更した場合は、WebEdge の再起動を行ってください。

4.1. IMAP クライアントとしての機能

IMAP クライアントとして WebEdge をお使いになると、POP クライアントでは利用できなかったフォルダ機能が利用できます。フォルダ機能には、以下のようなものがあります。

- 送信済みメールを格納するための Sent フォルダ
- 削除メールを保管しておくための Trash フォルダ
- 下書きメールを保管しておくための Drafts フォルダ
- フォルダの作成、削除(日本語のフォルダ名およびサブフォルダも利用可能です)



図 2 [WebEdge 受信箱]画面

WebEdge を IMAP モードにして Post.Office にログインすると、自動的に Sent、Trash、Drafts の各フォルダを作成します。これらのフォルダは、WebEdge が予約フォルダとして扱いますので、フォルダの名前の変更および、フォルダの削除はできません。また、新たに 予約フォルダと同名のフォルダを作成することはできません。

4.1.1. Sent フォルダ

[メッセージの作成]画面で、[送信メッセージの保存]にチェックをつけて送信すると、送信したメールが[Sent フォルダ]に格納されます。

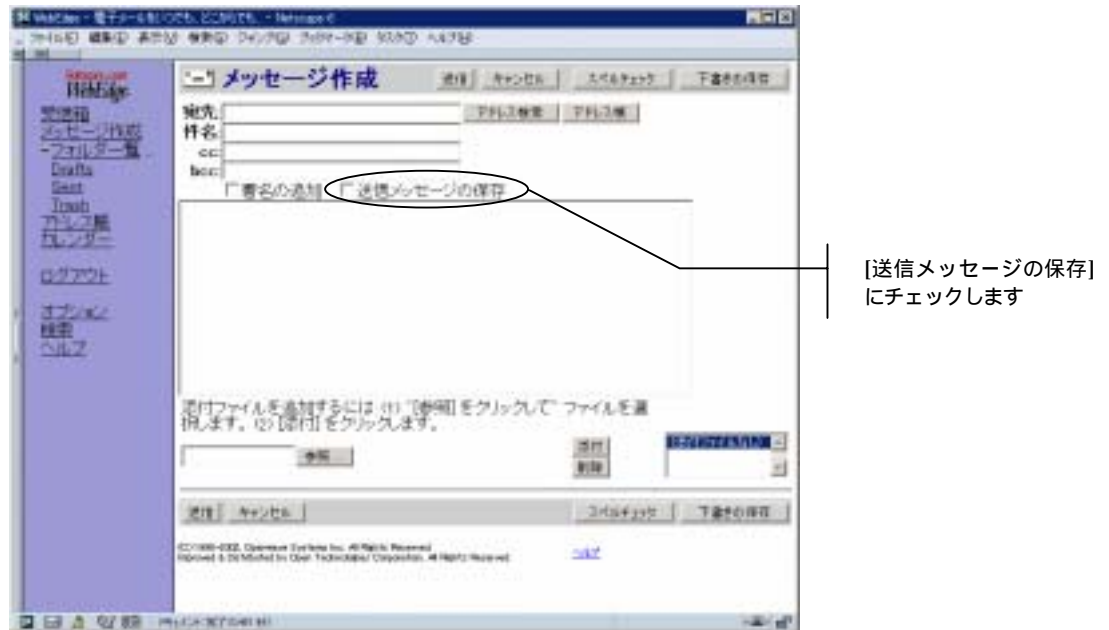


図 3 [WebEdge メッセージ作成]画面

4.1.2. Trash フォルダ

POP では、メールの削除を行うと、直接メールが削除されていますが、IMAP では直接メールは削除されません。メールの削除を行うと、そのメールは一旦 Trash フォルダに保管されます。

Trash フォルダでメールの削除を行うと、物理的にメールは削除され、一度削除したメールは元には戻りませんのでご注意ください。

4.1.3. Drafts フォルダ

[メッセージの作成]画面で、[送信]ボタンを押さずに、[下書きの保存]ボタンを押すと、メールは[Drafts]フォルダに格納されます。

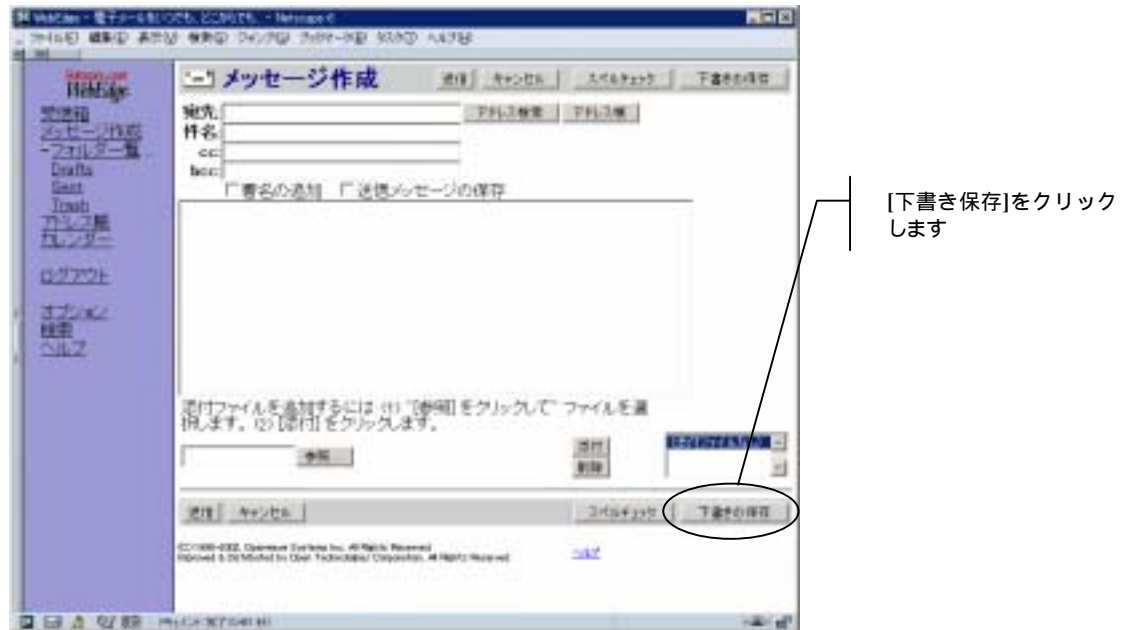


図 4 [WebEdge メッセージ作成]画面

再び編集して送信する場合には、[Drafts] をクリックして、一覧の中から再編集したいメールをクリックすると、メッセージの作成画面が表示されます。

4.1.4. フォルダの作成 / 削除

[フォルダ一覧]メニューをクリックすると、フォルダの一覧が表示されます。

フォルダの一覧には、Sent、Trash、Drafts の各フォルダに格納されているメッセージの総数と、未読のメッセージ数が表示されます。



図 5 [WebEdge フォルダの一覧]画面

新たにフォルダを作成する場合は[フォルダの作成]ボタンをクリックします。すると、次のようなフォルダ名入力画面になります。



図 6 [WebEdge フォルダの作成]画面

フォルダ名には、アルファベット、数字、日本語などが使えますが、以下の文字は、使用できません。

¥ (円マークまたはバックスラッシュ)

/ (スラッシュ)(サブフォルダとの区切り文字に利用できます)

: (コロン)

; (セミコロン)

. (ピリオド)

* (アスタリスク)

? (クエスチョンマーク)

" (ダブルクォーテーション)

<> (山括弧)

| (縦線)

@ (アットマーク)

% (パーセント)


(シャープ)

また、フォルダの中にサブフォルダを作成する場合は、親となるフォルダを作成した後、[フォルダの作成]のフォルダ名に、次のように入力します。

親フォルダ名/サブフォルダ名

例えば、Customer というフォルダ名の中に、Opentech というサブフォルダを作成したい場合は、次の手順で作成できます。

- 1) [フォルダの作成] で、"Customer" と入力して [OK] をクリックします。
- 2) [フォルダの作成] で、"Customer/Opentech" と入力して [OK] をクリックします。

必ず、親フォルダとサブフォルダは、"/"(スラッシュ)で区切る必要があります。親のない状態では、サブフォルダは作成できません。フォルダ名を変更する場合は、[フォルダの一覧]の  アイコンをクリックして、新しいフォルダ名を入力してください。

フォルダを削除する場合は、[フォルダの一覧]のフォルダリストの右端にある[X]アイコンをクリックしてください。たとえば、削除対象フォルダの名前が "TEST" であれば、「"TEST" フォルダを削除します」という旨のメッセージが表示され、削除してもよいか尋ねられますので、削除してもよければ、[OK]ボタンをクリックしてください。削除の際、フォルダにあるメールは、すべて Trash に保管されますが、フォルダは Trash に保管されません。一度削除したフォルダは元には戻りませんのでご注意ください。尚、親フォルダ/サブフォルダのように階層的になっているフォルダでは、そのフォルダを削除する場合、必ず階層の最下位にあるサブフォルダから削除をして下さい。(A/Bとあった場合はBから削除する)親フォルダごと削除すると、フォルダ情報やメッセージ情報が壊れることがあります。

4.2. WebEdge を IMAP としてお使いになる場合のご注意

WebEdge を IMAP クライアントとしてお使いになる場合は、同じ Post.Office アカウントを用いて、次のようなことをしないでください。メールボックスの情報が破壊される恐れがあります。

- 他のメールクライアントと同時に利用する (WebEdge を利用している最中に他のメールクライアントでもメールを取得する。そのメールクライアントの受信プロトコルが POP であっても同様です)
- 別の WebEdge ログイン画面から利用中のアカウントで再度ログインし同時に利用する

5. 追加情報

5.1. アドレス帳検索をご利用になる場合

WebEdge のアドレス帳検索で、LDAP Server に対して検索を行います。デフォルトでは、カーネギーメロン大学の public LDAP Server に対して、検索を行うことができます。他の LDAP Server への検索を行いたい場合は、mobility.cfg の LDAP_DIRS に、以下の書式で、検索対象を追加してください。

例) ldap.opentech.co.jp サーバに、サーチパス dc=opentech,dc=co,dc=jp で検索する
<option>ldap.opentech.co.jp/dc=opentech,dc=co,dc=jp</option>¥r¥n

検索対象は、HTML の SELECT タグを構成しますので、<option>~</option>で囲んでください。末尾に ¥r¥n と記述すると、HTML ソースの中で改行されます。Post.Office の WebEdge のログイン認証に使われる LDAP Server を指定したい場合は、次のような指定になります。

例) postoffice.opentech.co.jp サーバで稼働中の Post.Office の LDAP Server を検索する
<option>postoffice.opentech.co.jp:10389/cn=person,dc=my-host,dc=jp</option>¥rn

この設定を変更した場合は、WebEdge の再起動を行ってください。

5.2. Post.Office と WebEdge と連携させていて、Post.Office のアカウントを削除する場合の

ご注意

Post.Office と WebEdge を連携させている時に、Post.Office 側のアカウントを削除しても、現在のバージョンの WebEdge では、WebEdge 側でアカウントごとに設定できる[ユーザオプション]の情報は、自動的に削除されません。WebEdge の管理者サイトの[ユーザ管理]で個別にユーザオプションの情報を削除する必要があります。

WebEdge の[ユーザ管理]で、ユーザオプションの情報を削除しないまま、一度削除したアカウント名と同じアカウント名を Post.Office 側で作成し、WebEdge からログインすると、以前 WebEdge で作成されていたユーザオプションがそのまま引き継がれて使用されますので、ご注意ください。

6. WebEdge 3.8.2J の制限事項

6.1. IMAP で検索を行うと、未読のメッセージが既読になる

IMAP モードでメッセージの本文に対する検索を行うと、すべてのメッセージを取得した上で、メッセージ本文内のテキストの検索を行うので、未読メッセージが既読になります。

6.2. 階層的なフォルダを削除する場合の注意

親フォルダ/サブフォルダのように階層的になっているフォルダでは、そのフォルダを削除する場合、必ず階層の最下位にあるサブフォルダから削除をして下さい。(A/B とあった場合は B から削除する) 親フォルダごと削除すると、フォルダ情報やメッセージ情報が壊れることがあります。